

教育目標・学校像	「豊かな人間性と自ら学ぶ態度を育み、地域を支える産業人を育成する」	重点目標・評価項目	ア 魅力ある授業を実践し、学習意欲を高め、学びに向かう力を育成する。 ○わかる授業の実践 ○学習習慣の確立 ○資格取得の向上 イ 自己実現を図るために、校外活動等への積極的な参加を奨励し、自主性や主体性を育む。 ○進路指導の充実 ○部活動の活性化 ○地域連携活動の推進 ウ 規律を遵守させるとともに、社会生活に必要なマナー等の社会性、社会的自己指導能力を育成する。 ○早寝早起き朝ご飯、規則正しい生活の確立により、遅刻・欠席・早退の縮減 ○時間厳守による充実した学校生活 ○挨拶の励行により活気のある学校
	(1)専門的な知識・技能の習得を目指し、学ぶ楽しさや学ぶ方法を知り、将来に役立つスキルを身につける学校		
	(2)地域の交流や地域貢献を通して社会に役立つ人材を育てる学校		
	(3)自然を対象とした学習を中心に豊かな人間性をはぐくむ学校		

各部等の自己評価

		重点目標	具体的な手段	自己評価及び反省事項【自己評価は4点満点】	
重点目標		魅力ある授業を実践し、学習意欲を高め、学びに向かう力を育成する。	わかる授業の実践	2.9	・少人数を生かした授業やICT機器を活用した授業の展開が進められている。 ・農業科目については、実習を重視した授業が多く学習習慣の確立のための取り組みが不足しているが、重要な要素であるため、両立して指導していく必要がある。 ・資格取得のサポートや対策について検討する必要がある。
	学習習慣の確立				
	資格取得の向上				
	自己実現を図るために、校外活動等への積極的な参加を奨励し、自主性や主体性を育む。	進路指導の充実	3.0	・進路指導については、指導のノウハウや取り組み事例を校内で共有し、より組織的に対応できるようにする必要がある。 ・部活動加入率や活動状況について検討する必要がある。また、指導方法等の工夫についても検討する必要がある。 ・地域連携活動について、より全校的に実施ができるよう検討する必要がある。	
	部活動の活性化				
地域連携活動の推進	2.8	・基本的な生活習慣の確立に向けた指導をより効果的に行うため、さらなる職員の連携や組織力の向上を図る必要がある。 ・自己指導能力の育成に向け、指導方法の工夫を図りながら、粘り強く指導を継続する必要がある。 ・挨拶の励行については、外部の方からも一定の評価を受けている。			
	規律を遵守させるとともに、社会生活に必要なマナー等の社会性、社会的自己指導能力を育成する。	早寝早起き朝ご飯、規則正しい生活の確立により、遅刻・欠席・早退の縮減	時間厳守による充実した学校生活		
			挨拶の励行により活気のある学校		
		努力目標	具体的な手段	自己評価及び反省事項【自己評価は4点満点】	
教務部	重点目標関連	学校教育目標達成に向けた機能的な学校組織確立のために、各種企画や連絡・調整に努める。	・各教科・学年・学科・部等との連携を図り、教育課程の適切かつ効果的な運営に努める。 ・「栃農ブランド」の登録商標化に向けた情報提供や連絡・調整に努める。 ・ICT教育や学習評価等をテーマとした現職教育の充実に向け、連絡・調整に努める。	3.2	・学校行事と授業確保について調整してきたが、スポット的に学校行事が入り込むこともあるため、検討する必要がある。 ・教育課程や栃農ブランド登録商標化推進等を効果的に実施するため、職員間を含めさらなる連携を図る必要がある。 ・現職教育を通して、指導力の向上を図る必要がある。
		教育活動が各分野で円滑に行われるよう、教務事務およびその整備・改善を速やかに遂行する。	・諸帳簿・書類の適正な作成と保管を行う。 ・必要な情報の迅速かつ正確な伝達に努める。 ・教材・教具等の物品整備・確保に努める。 ・校内諸規程の適正な改正と運用を推進する。 ・教務関係の事務効率化(スクールウェア・校務支援システム活用を含む)を推進する。	3.4	・スクールウェアや校務支援システムの活用が進み、事務の効率化や情報共有の迅速化、円滑化につながっている。 ・ICTを活用した事務効率化については、情報格差につながることも考えられるため、研修を含めて検討する必要がある。
	それ以外の事項	保護者や生徒および関係機関への情報提供や連絡を円滑に遂行する。	・各教科・学年・学科・部等との連携を図り、保護者や生徒への情報提供や連絡に努める。 ・情報管理部と連携し、学校Webページを活用して学校行事等の迅速な公開に努める。 ・各教科・学年・学科・部等との連携を図り、報道機関等への積極的な広報に努める。	3.1	・学校Webページや一斉メールを活用が進み、学校全体として情報発信や情報提供が積極的に行われている。 ・部署(担当者)により情報発信への意識の差があり、全体としての意識向上に向け検討する必要がある。
		働き方改革を踏まえた教務事務の効率化に向け、各種取り組みを推進する。	・ペーパーレス化やICT機器を活用した業務推進に向け、情報提供や連絡・調整に努める。 ・学校行事の見直しを行い、効果的かつ効率的な学校行事となるよう連絡・調整に努める。 ・タイムマネジメントの視点を踏まえた業務効率化に向けて連絡・調整に努める。	3.3	・会議資料のペーパーレス化が浸透している。生徒・保護者向けの配布資料等についても検討を進めたい。 ・アンケート調査や教員間の連絡に、タブレットや校務支援システムを活用する教員が増えた。 ・学校行事については、様々な視点に基づき検討を進めたい。
情報管理部	重点目標関連	GIGAスクールタブレット端末の活用促進	1人1台のタブレット端末を朝の学習や授業、学校行事に積極的に活用する。また、家庭学習等への活用も含め努力する。教職員に対しては、現職教育を実施し、利用を促進する。	2.8	ICT利用強化月間等を通した教員同士の学び合いもあり、授業での活用は進んだ。一方で、教員間での差や家庭学習での活用まで至っていない点も見受けられる。今後改善に向け、マニュアルの作成や研修等が必要になる。
		校務支援システムの活用による業務改善	各部や各学科と連携をとり、出欠管理や成績管理、進路や部活動等への活用に繋げるとともに、各職員が活用できるようにマニュアル等の提供を行う。	3.3	校務支援システムの活用については概ね問題ないと思われる。一方で人為的なミスも発生しているため、マニュアルの充実に取り組むとともに、ヒューマンエラーを防止する仕組みの構築が課題となる。
	それ以外の事項	学校HPを充実させ、地域連携、情報発信の手段としての有効活用	生徒の学校生活や学校行事、生産物の販売情報を遅滞なくHPに掲載する。見やすいHPを心がけ、バナーの位置等を改善する。	2.7	HPによる外部への情報発信頻度に関しては、前年度より改善されたように思われる。進路情報や表彰関係など全体のページの更新が滞りがちになり最新状況になっていないことが多い。また、更新頻度が高い部署と低い部署があるため、今後はその均一化が課題となる。
		物品の管理を適切に行い、PC、プロジェクター、スクリーン等の円滑な活用のための補助を行う。	物品の貸し出し状況を可視化することで、所在を明確化するとともに、適宜補充を行う。	2.8	係としての管理は適切に行われている。一方で、その管理方法を無視した持ち出しが発生し、必要な場面で使用できない事態が発生している。教員の意識改革と、管理規則の明確化が今後必要になる。

学習指導部	重点目標関連	授業・実習の充実	・授業時間の確保のため、始業時間・終了時間を厳守する。 ・ICTなどを活用して、分かる授業・魅力ある授業の展開を図る。	3. 1	・実習の終了時間が遅れることもあったが、概ね達成できた。しかし、曜日による授業時数の偏り等、教務と連携して授業時間を確保する必要がある。 ・FormsやTeamsを活用する機会が増えたが、生徒にICT機器を活用させるための工夫が必要である。
		基礎学力向上のための取り組み	・朝学習の実施を徹底する。 ・基礎力診断テストを活用する。 ・家庭学習を習慣化させるための働きかけをする。	2. 5	・朝学の目的や意図が不明確になっている。 ・基礎力診断テストの結果を気にする生徒はいるが、事前課題を行わせる以上の活用はできていない。 ・課題提出を徹底するなど、学習に取組ませるための働きかけが有効である。あきらめずに働きかける必要がある。
	それ以外の事項	資格取得率の向上	・各種資格取得について生徒に周知するとともに、資格取得を奨励する。 ・資格取得率向上のため、放課後等を利用して指導の充実を図る。	2. 5	・今後必要となる資格を精査する必要がある。 ・合格率が伸び悩んでいる資格もある。資格取得に向けた年間スケジュールを示すなど、計画的に準備できるような働きかけが必要である。
		プロジェクト活動や、ボランティア・地域交流活動の充実	・ボランティア活動の紹介と参加の奨励をして、地域交流活動の充実を図る。 ・各学科・団体のプロジェクト活動の充実を図る。	2. 9	・地域交流の場が増え、生徒の学びが深まる機会が増えている。 ・各種大会、コンテスト等に参加し、実績を残す生徒もいる。しかし、特定の教員の負担が増えないよう、複数の担当者で指導することが必要である。
生徒指導部	重点目標関連	基本的生活習慣の確立	・遅刻が常習化している生徒への働きかけを強化し、規則正しい生活が確立するようサポートを行い、遅刻者の延べ人数の減少を図る。 ・服装・容姿など、学校で定められた規則を遵守し、高校生としての正しい在り方について生徒の理解を深めさせ、自己指導能力を高める。	2. 9	遅刻が常習化している生徒への指導を粘り強く行ったが、なかなか改善の見られない生徒が一定数いた。家庭への連絡も十分に行っていたものの、同じ状況が繰り返された。次年度に向けて、何らかの対策を練る必要があると考えられる。
		教育相談体制の充実	・スクールカウンセラーとの情報交換を密にし、早期対応に役立てる。 ・保護者と連携し、学校と家庭の支援が有効に行われるよう努める。 ・外部の関係機関との連携を強化する。	3. 3	家庭の悩み、いじめ、自殺願望など、多岐に渡る複雑な問題に対しては、迅速な対応をすることができた。家庭や関係機関との連携も密にできており、次年度も継続していきたい。
	それ以外の事項	いじめや問題行動、ネットトラブルの防止	・教員間の情報交換の機会や連携を密にし、いじめや問題行動等の発生防止に努める。また、早期対応を徹底する。 ・ネットトラブル未然防止のため、SNSの利用などの注意喚起を徹底する。	3. 3	いじめ防止対策推進法に従い、些細なことでもいじめとして認知し、対応することができた。いじめ対策委員会も機能しており、いじめは「起こるもの」という認識が教職員の間でも定着してきている。他校の生徒指導部との情報交換のなかで、本校のいじめ認知件数は多く、本校は新たな法律に則して職務にあたることができていたこともわかっていて。また、SNSに対する監視には限界があるが、県のネットパトロールの結果報告などを活用し、重大事案に至らぬよう情報収集を行っている。
		交通規則の厳守やマナーの醸成	・違反する生徒への指導を徹底し、指導を通して規則やルールを守れる生徒の育成を図る。 ・自転車に関する条例を遵守できる指導体制をつくる。	2. 9	自転車に関わる条例のうち、「保険加入の義務」に関しては加入率100%を達成している。努力義務である「ヘルメットの着用」に関しては、声掛けはしたものの、浸透しなかった。自転車のマナーに関する苦情は近年、減少傾向にあるが、危険箇所でのマナー違反はいくつか報告されている。引き続き指導を継続していきたい。
進路指導部	重点目標関連	キャリア教育の推進強化	低学年からの継続的・発展的なキャリア教育の推進を進路指導部が中心となり、学科・学年・教科との連携を図りながら指導の分担を明確にする。	3. 1	・どうしても低学年の生徒のモチベーションが低いように思える。 ・1学年は計画的に進路関係の指導が行えていたと感じた。学年間での進路活動の流れをもう少し把握できればよかった。 ・学科主導か、学年主導かが不明瞭な部分があり連携が取りづらかった。全体の方針や主導元を統一して明確に示せると良いと思った。
		生徒たちが社会の変化に柔軟に対応し社会人として自立ができるよう、学校活動と意図的に関連づけ教育を実践する。		3. 2	・学年、学科でキャリア教育を実施しているのでもいいと思う。 ・学校活動と意図的に関連づける内容を理解できていないので実践しづらい。 ・あいさつや提出期限を守る等の基本的な決まりを守ることを普段の生活で丁寧に教える必要がある。
	それ以外の事項	進路先(大学等、企業)の情報の共有化	今までの実績を基に計画的に低学年から進路指導を実施し意識を高める。	3. 3	・学科、学年ごとの温度差もあるなど感じるところがある。 ・担任間での情報の共有が不十分な面があった。 ・起業説明会などを実施する際に、難しい部分もあるとは思いますが卒業生の就職先などの企業を呼ぶことが出来るとより意識が高まるのではないかなと思う。
			生徒が主体的に情報を収集できるよう進路室の情報を整理し、進路について気軽に相談ができるような風通しのよい進路指導室の環境を整える。	3. 6	・3年生に関しては進路室に必然的に足を運ばざるを得ないが、1～2年生は敷居が高い気がした。 ・生徒が利用しやすい環境を整えることができた。ある程度の決まりを守って使用できていた。沢山アドバイス等があり、生徒も利用しやすかったと思う。
健康指導部	重点目標関連	基本的生活習慣の確立し、主体的に健康課題を解決できる資質・能力を育成する。	生活習慣に関するアンケートや健康診断等の結果を基に、生徒の健康面に関する課題や問題点を把握し、保健だよりやポスター等により、健康管理に関する情報提供や啓発活動を行う。 学校医等と連絡調整を図り、健康診断を適切に実施するとともに、個別に受診勧告を行い受診率向上を図る。	3. 5	・保健だよりを定期・時季に応じた内容で発行・HPへ掲載し、ポスター等の掲示により、健康に関する情報提供・啓発活動を行うことができた。 ・学校医と連携・協力を密にし、適切に健康診断を実施するとともに、個々の生徒への事後対応を円滑に行うことができた。 ・家庭と連携した健康教育の充実を図るため、がん教育講話、心の教育講話では保護者も参加できるようにした。 ・個別に受診勧告を行うとともに担任等と連携し保護者へ受診の依頼を行った結果、受診率が向上した。
		体力の向上を図り、規律ある行動を育成する。	体育の授業において、毎時間ランニングや補強運動を取り入れる。また、新体力テストの結果等をもとに、自己の体力向上に向けた計画を立てる。 安全かつ敏速に能率的な集団行動ができるようにするため、授業や集会、体育的行事等における集団行動・規律ある行動を重視した指導を行う。	3. 2	・体育の授業において、集団行動・規律ある行動を身につけるとともに、自他の健康・安全を確保し活動する資質・能力を高め、自己指導能力を育てる指導を重視して取り組めた。 ・体力向上について、授業での取り扱いや指導の工夫を図っているが生徒の行動変容に至らないのが課題である。
	それ以外の事項	学校環境の安全確保と事故等発生時の適切・迅速な対応を行う。	安全点検マニュアルに基づき、定期的に安全点検を実施し、危険箇所等の周知と情報共有を図るとともに、必要に応じて事後措置を講じる。 教職員を対象とした事故や災害等の発生時の対応や心肺蘇生法・応急手当の講習等の校内研修を実施する。	3. 3	・安全点検マニュアルを策定し、概ね月1回の安全点検を実施することができた。危険箇所への対応とともに、職員・生徒の安全に対する意識向上につなげていきたい。 ・危険箇所等を把握し、修理等の対応ができたが、施設・設備の老朽化が目立ち、十分な対応ができない箇所もある。 ・消防署に依頼し、生徒、職員向けの心肺蘇生法の講習会を実施することができた。事故や災害等の発生時の対応に関する職員向けの校内研修や生徒への災害・防災教育の充実にも努めていきたい。
		教職員間の連携を図り、日常の保健指導や生徒の健康・安全に関する支援・指導の充実を図る。	感染症対策や熱中症予防など時季に応じた保健指導の充実を図る。 生徒の健康に関する情報を把握し、教職員間で情報共有を図り、関係職員と連携して、個別の健康指導・健康相談を行う。	3. 2	・熱中症予防に対する教職員・生徒の意識を高めるとともに、屋外での活動時に暑さ指数を活用して活動内容の工夫・検討できるよう、屋外にWBGT計を設置した。 ・生徒の健康に関する情報の把握に努めていたが、学校感染症発生時の対応について、担任と保健室の連携が図れていなかったケースがあり、連絡体制を周知していく。 ・感染を最小限に抑えるために、手洗いうがいの徹底や清掃時間等を活用し、消毒等を行えるようにしていきたい。

特別活動部	重点目標関連	校内外の活動を通して、生徒の自主性・主体性を育む。	各学校行事のねらい、やりがい等を生徒へ周知し、生徒ひとりひとりに役割を与えて主体的に取り組ませる。	3.0	・意欲的に主体的に取り組む姿が多く見られた。 ・栃農祭では一部の生徒に役割が集中してしまうことがあったため、関係各所と連携しながらそうならないようにしたい。 ・栃農祭実行委員長からも行事の意図ややりがいの話をしてもらってもよかったかもしれない。
	それ以外の事項	各部活動・同好会の活性化を目指す。	生徒会役員に学校の代表者としての自覚を持たせ、学校生活を有意義にするために生徒自身の判断・意思で考えて行動させる。	3.0	・目安箱をスマートフォンやタブレット端末で回答できるようにしたり、あいさつ運動を習慣化したりと積極的に新しいことに取り組む姿が見られた。 ・基本的に週に1回生徒会の集まりがあるが連絡がなく休むものがあった。自覚を持たせるべく必要に応じて個別に面談等をしたい。
	それ以外の事項	危機管理を徹底して各学校行事を実施する。	各種ガイドラインを遵守して各学校行事を計画・実施し、教員間・生徒間の連携を密にする。	3.2	・各種ガイドラインに則り、各学校行事を運営できていた。 ・生徒への指導が行き届いていない場面があった。
環境整備部	重点目標関連	学習環境の改善・整備 ※教室、実習室、準備室の整理整頓	下校時に机上、ロッカーに物を置かない状態にし、机、ロッカーを整理させて下校させる。 大掃除の際、窓、ロッカーの後ろ等日頃できない場所の清掃を徹底する。	2.8	クリーン・デーでは窓枠やエアコンのフィルターなど普段できない箇所やその季節や行事に向けた掃除の重点項目を決めた。クリーンデーは定着してきたが、月1回は多いとの意見もあった。
	それ以外の事項	学習環境の改善・整備 ※施設、設備器具の点検、計画的修繕	清掃用具入れ、ロッカーや下駄箱のフタなど破損した箇所の調査・修繕・整備を行う。 清掃用具の調査、補充を行う。	3.0	・用具入れやフタは、その都度修繕などしてもらっていたが、新しいものがないため新品への交換には至っていない。 ・壊れた清掃用具は、清掃用具倉庫で集めて交換。不足分は7月に調査し、事務を通して購入、各清掃場所に配布した。
	それ以外の事項	校舎外環境の改善・整備	月に1回、担当エリアの施設設備の点検を行う。 適宜、担当エリアの薬剤散布を実施する。	3.6	・クリーン・デーには、整美委員を集め学校周辺のゴミ拾いを行った。 ・施設設備の点検、担当エリアの薬剤散布の実施を行う事ができた。 ・校舎外担当者は清掃の範囲が広く、また掛け持ちもしているため負担が多くなってしまう。
	それ以外の事項	PTA役員を中心に、会員と協働し、組織を円滑に運営していく。	本部役員との報連相を密に行い、クラス役員の協力を得ながら、各種活動を円滑に行う。	3.4	栃農祭やマラソン大会で多くの参加協力を得て、充実した活動にすることができた。必要に応じて連絡を取り、漏れのないように努め、各種活動を円滑に行うことができた。
渉外部	重点目標関連	創立120周年および3校統合に向けて、関連組織が連携し、準備を進めていく。	タイムスケジュールを守り、俯瞰的にとらえ、各種組織が連携、サポートし合い、BPRを行いながら着実に準備を進める。	2.9	120周年については計画的に準備委員会が開かれていた。これから本格化していくのだと思うが、統合に向けては準備が進んでいるようには感じられなかった。検討事項については、早い段階で示し、スケジュール感を持つて行うことが必要になってくる。
	それ以外の事項	学校と家庭・地域社会が密接に交流を図りながら、地域連携活動を推進していく。	栃農祭や校内マラソン大会等の行事において協力し合い、地域との交流を図り、地域連携を推進する。	3.4	連絡を密に取り、学校と家庭が交流を図りながら、栃農祭やマラソン大会、PTA総会等のイベントを充実したものにすることができた。いろいろな意味でコミュニケーションの大切さを痛感した。
	それ以外の事項	渉外に関わる各種の事務手続きを滞りなく行っていく。	PTA・同窓会・購買・教育諸団体において、関係職員で協働し、円滑な運営、事務手続きを滞りなく実施する。	3.1	保護者へのや支払いに関しては相談しながら事務手続きを行うことができた。案内通知等についてはより計画的に行えと、さらによくなると思う。
農場部	重点目標に関する事項	魅力ある授業の実践	・計画的で豊富な実験・実習の実践。 ・IT・グループ学習など、きめ細やかな指導を通したわかる授業の実践。 ・授業が社会と生徒の未来像とがつながるよう、農家や専門機関と連携した授業の実践。	2.7	豊富な実験・実習の実践については、ほとんどの科目において達成されたものの、一部課題が残る科目もあった。また、農家や専門機関と連携した授業は課題研究など一部の授業では実践がなされたが、特に1年生の科目では連携が難しいものもあった。
	それ以外の事項	地域で活躍できるリーダー育成を行う。	・学科の特徴を生かした授業展開の中でリーダー・サポーターを体験させる。 ・連携・交流・協働活動を推進し、生徒の主体的な活動を引き出す。 ・リーダー・サポーターの両面から評価し、次の活動につなげる。	2.5	実習の場面においては、リーダー体験ができる展開が良くなされていたが、リーダーが一部に限定される傾向があった。連携・交流・協働活動については、3年時ではよく実践された。1・2年生については課題が残る。3年間を見越した展開を計画したい。
	それ以外の事項	望ましい農場運営を構築する。	・計画的な予算の執行を行い、生徒の学習効果を高める。 ・圃場・施設・設備等の整備を進め、望ましい実験実習ができる環境を構築する。	2.7	昨年に比較し、計画的な予算執行がなされている。また、圃場・施設・設備等の整備はよくすすめられたが、廃棄に費用がかさむものについては積み残された。統合に向けて、一層の整備をすすめたい。
	それ以外の事項	持続可能な働き方を構築するための、業務改善の推進を行う。	・タイムマネジメントを意識し、効率の良い業務推進を行う。 ・授業・業務の効果を検証し、高パフォーマンスを目指す。	2.7	授業・業務の効果検証や高パフォーマンスを求めることについては、よくできたが、一部、業務量が多くタイムマネジメントを適正に行えるまでには至らなかった。業務量の適正化を図るとともに、業務量の平たん化を図りたい。

1 学 年	重点 目 標 関 連	基本的生活習慣を確立するための指導	・出席率98%以上を目指す。 ・服装容姿、挨拶、返事をしっかりとさせる。	2.9	・一部生徒に欠席遅刻が多い。他の生徒が引きずられないような指導を、今以上にしていける必要がある。 ・あいさつはしっかりとできている。冬服の服装の乱れに注意が必要。 ・多くの職員で協力して組織として取り組んでいる。
		進路を見据え、自発的に取り組む姿勢を確立するための指導	・目標意識を持たせる。 ・自ら考えて行動する習慣を身に付けさせる。	3.0	・進路ガイダンス等を活用し、意識が向上している。生徒は自分のこととして捉えていた様子。 ・自らの将来像が見えていない生徒への対応が課題。 ・自発性を促す指導不足。LHRも全体の指導より、各HRでクラスの実情に合った指導の時間を確保した方がよい。各科の農業教員に進路の話や今までの経験話を話すなど、関わりのある人からの話のほうが浸透するのでは。 ・生徒が自身の考えを深め、発信するような機会が不足していた。(ガイダンス等でインプットしたものをアウトプットできるような取り組みを)
	それ 以 外 の 事 項	生徒の心身のケアをおこない、生徒個人個人の能力を伸ばす指導	生徒との面談を密にし、関係部署・保護者・関係機関との連携を密にする。	3.2	・面談時間を確保することが難しい。(2学期の選択科目等について) ・定期的に面談を実施しているクラスが多くある。 ・放課後の生徒指導や学年指導の生徒を無期限に延ばされると自分のクラスの指導ができない。学年指導は良いが、生徒指導対象の生徒は生徒指導部で見ることができないのか。生徒自身も境目が分からず、指導の重みがなくなっていた。
			情報の共有をし、学年全体で当たる体制を確立する。	3.5	・教員間での情報共有はしっかりとできていた。 ・教員間で相談、連携をとりやすい関係性が構築されている。
2 学 年	重点 目 標 関 連	自ら進んで何事にも取り組み、挑戦する姿勢を養うための指導	学年、教科、学科、各部との連携を図るなどして、学習、課外活動に積極的に取り組み、成果を上げさせる。	2.3	生徒指導の件数が増える等、対応に追われることもあった。今後とも各部・教科・学科との連携を保ちつつ、何事にも積極的に取り組む生徒の育成をしていきたい。
		社会通念に即した基本的生活習慣を確立するための指導	・行事連絡、指導を徹底することで、メリハリのある行動を促す。 ・TPO(時間・場所・場合)をわきまえた判断・行動を身につけさせる。	2.3	・修学旅行は大きな問題なくできた。 ・特に2学期は行事が多く、一つ一つについて、十分な連携をとりながら実行していくことに課題が残ったと思う。
	それ 以 外 の 事 項	進路を常に意識させ、今年度中の早い段階で、将来の方向性を決められるための指導	日常の様々な機会を利用し、進路について考えさせる。	3.0	小論文模試の受験やそれに向けての夏休みの課題、また外部と連携した事業を行うこと等で、進路意識の向上に資することができた。また、ボランティア活動や資格取得を促すこと等を通じて、主体的に学ぶ姿勢の育成に資することができた。
			インターンシップなどを活用し、健全な職業観と各自の将来像について考えさせる。	3.4	インターンシップを通じて進路・職業観を養い、働くことについて考えることができた。また、新たな実習先を開拓できたこともよかった。
3 学 年	重点 目 標 関 連	自身の考えに従って行動し、進路実現に向けた自主的な活動をするための指導	・進路実現に必要な情報の収集方法を身に付けさせる。 ・行動・容姿が進路決定に適しているか考えさせる。	3.0	・一学期より学年としてとまった指導を行うことができたが、二学期以降にだらける生徒が見られた。 ・求人票を読み取れない生徒がいたため、指導を全体で統一して行う。 ・指導の統一感がない。
		社会通念に則した基本的生活習慣を確立する指導	・「時間・期限の厳守」「報・連・相」を大事にする。 ・メリハリをつけてTPOをわきまえた判断・行動を身に付けさせる。	2.8	・就職内定・進学合格後の欠席や遅刻が目立つ。 ・安易な欠席・遅刻が多すぎる。先を見通した行動ができていない。 ・指導の共通理解がない。
	それ 以 外 の 事 項	進路決定を第一に考え、そのために何をすべきか考え、行動するための指導	・あらゆる機会を利用して、進路について考えさせる。 ・自己の適性を理解し、自己に合った進路を考えさせる。	3.1	・進学者の意識が高い一方で、就職組の意識の低さが目立った。 ・進学組はできていた。就職組の自己理解はあと一歩。 ・進学は頑張った

植物科学科	重点目標関連	「生徒第一」を基本とし、産業人として必要な資質・能力を育成する。	教育的愛情を持ち、生徒の成長を第一に考え、各科目に関連する知識及び技術が身につくように指導していく。	3.3	一人一人を大切にし、可能性を伸ばすために全体指導と個別指導を使い分けて指導することができた。資格取得については不十分であると感じた。取得時期を生徒に提示し、補習等で合格率をあげていく必要がある。
		産業人として必要な豊かな人間性を育みながら、意欲的かつ協働的に取り組む態度を醸成する。	わかる授業を実践する中で、生徒の主體的・対話的で深い学びの実現を図り、豊かな人間性を育てていく。また地域連携活動等を通じ、取り組む態度も養成していく。	2.9	わかる授業を実践する中で、見学研修や支援事業を活用し、深い学びにつながるように授業展開を工夫した。豊かな人間性を育てため、農産物の販売実習等に注力している。地域連携活動においては、各部門で取り組んでいる。
	それ以外の事項	栃農ブランドの一つなる人材育成に関する活動のようすを外部に発信する。	各部門(作物・果樹・野菜・草花)において、毎月1回程度はホームページを更新し、情報を発信する。その際、学科のPRも行い、志願者が増えるように努めていく。	2.9	学科として情報の発信に努め、定期的にホームページを更新することができた。文言については、中学生でも理解できる内容とし、志願者が増えるように取り組んでいる。
		規律やマナー等の遵守により社会から愛される人材を育成する。	是々非々主義で対応し、稚心を去らせる指導を粘り強く行うとともに取り締まりは愛情と考え、社会から可愛がられる人材を育成していく。	3.4	学科職員全体で協働し、社会から可愛がられる人材を育成する指導を行うことができている。インターンシップの評価において、可愛がられていた生徒が多かったことが読み取れた。
動物科学科	重点目標関連	魅力ある授業の実践	・授業の充実を図るため、校外の企業や機関など取り組みを検討する。 ・農家や専門機関、上級学校と連携した授業を実施する。 ・PDCAサイクルを実践した授業の展開	3.0	・高専連携授業や動物園視察研修を通して授業の展開を広めることができた。 ・実験実習を充実させることができた。可能であれば科学的要素を増やしたい。
		進路実現に向けた、校内体制の構築	・科内職員で協力し、進路希望に応じた進路指導を行う。(3年生) ・インターンシップを円滑に実施する。(2年生) ・進路意識を高める行事を開催する。(1年生)	3.6	・3年生の進路実現のため学科全員で進路指導を行うことができた。 ・インターンシップの受け入れ先を探す手立てを教員間で協力して取り組むことができた。
	それ以外の事項	資格取得の推進	・各学年で計画的に資格取得の指導をし、生徒たちへ成功体験を積ませる。 ・アグリマイスター顕彰制度を活用する。	2.6	・学科で取り扱う資格への参加者が少なく扱いが難しかった。アグリマイスター顕彰制度でプラチナ取得が2名となった。
		学科の広報	・HPを積極的に更新し、学科の情報を外部に発信する。 ・校外の方々と交流を持ち、学科をPRする。	3.0	・科内行事やイベントに合わせてHPを更新することができた。社会動物コースはHPの更新が多かったが生産動物のHP更新は不足していた。 ・学校祭で自分たちが育てた豚を豚串として売り、アピールできた。
食品科学科	重点目標関連	規範意識の定着・衛生管理の徹底および安全管理意識の徹底	実習服の着こなしについての指導を徹底するとともに、自ら率先して衛生管理に基づいた行動ができるよう指導する。	3.1	・大部分の生徒については意識から徹底することができたが、一部の生徒においては不十分な面が見受けられたので、徹底していきたい。 ・火傷などの早期対応など教員間での認識を徹底していきたい。
		専門的知識の定着を図り、わかる授業を展開する	・座学と連携させ、基礎的な内容の実験や実習を実施する。 ・生徒が意欲を持って取り組める学習活動を実践するために、教材研究を充実させる。	3.2	・座学と実習の連携することができた。 ・各自が専門的知識を深めるため、空き時間などを利用して教材研究をすることができた。
	それ以外の事項	進路実現に向けた指導の充実を図る	食品関連産業従事者育成のために、実習等で専門的な内容に触れ、職業人の育成を図るとともに、自ら主体的に行動できる人材を育成する。	3.4	・インターンシップの受け入れ先において新規開拓をすることができ、生徒に幅広い選択をさせることができた。
		学科の広報	・HPを積極的に更新し、学科の情報を外部に発信する。 ・校外の方々と交流を持ち、学科をPRする。	3.0	・実験、実習などの風景を定期的にHPにおいて発信することができた。 ・校外においても各種イベントに積極的に参加することができた。
環境デザイン科	重点目標関連	学習意欲の向上と専門的知識・技術の定着	・専門学習への興味・関心・理解を高める授業を展開し、資格取得率の向上と専門的な進路選択を増やす。 ・実習服などの身だしなみや道具の取扱、安全管理など、自主的に判断し、行動に移せるように指導していく。	3.2	学習意欲や専門的な進路選択を増やすことができている。専門的な学習により意欲的に取り組むよう授業展開を工夫していきたい。また安全管理や道具の使い方など主体的に身につけるための自ら考えさせる授業の展開を考えていく必要がある。
		環境デザイン科ならではの魅力ある活動の実践と発信	・SDGsや地域連携に専門的な学習を関連させて学科の対外的な活動を継続する。 ・日々の学習内容や校外活動などをHP等を通じて地域へ発信する。	3.2	地域との連携や校外での研修・実習などを実施することができ、生徒への効果も感じられる。一方でHPの更新は滞ることが多いため、分担を決める等の工夫により、更新頻度を上げたい。
	それ以外の事項	生徒の自主性・主体性の向上	・地域連携活動や資格取得など生徒が自主的に取り組めるような仕組み・仕掛けを構築する。 ・学科の学習内容を活かし各種コンクールの応募や農業クラブの各種競技会等への参加を積極的に取り組む。	2.2	資格の取得については例年より減少しており、補習等の在り方と自ら学ぼうとする姿勢を養う点ための工夫する必要があると考えている。またコンクール等に多くの生徒が応募しやすい指導体制を構築したい。
		指導と評価の一体化	観点別評価を踏まえ教材や施設・設備の準備・計画など実情に合った学習内容を展開する。	2.8	生徒の実態を踏まえ計画を立て、実行することができた。実行することで見えた細かな課題をもとに綿密に計画を立てて実行していきたい。